



2025年4月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年12月9日

上場会社名 株式会社アスカネット 上場取引所 東
 コード番号 2438 URL https://www.asukanet.co.jp
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 松尾 雄司
 問合せ先責任者（役職名） 専務取締役CFO（氏名） 功野 顕也（TEL）082-850-1200
 半期報告書提出予定日 2024年12月13日 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2025年4月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年5月1日～2024年10月31日）

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年4月期中間期	3,402	—	15	—	19	—	2	—
2024年4月期中間期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2025年4月期中間期 1百万円(—%) 2024年4月期中間期 —百万円(—%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年4月期中間期	0.14	—
2024年4月期中間期	—	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、2024年4月期第3四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2024年4月期中間期の数値及び対前年同中間期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年4月期中間期	6,696	5,855	87.4
2024年4月期	7,090	6,156	86.8

(参考) 自己資本 2025年4月期中間期 5,855百万円 2024年4月期 6,156百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年4月期	—	0.00	—	7.00	7.00
2025年4月期	—	0.00	—	—	—
2025年4月期(予想)	—	—	—	7.00	7.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年4月期の連結業績予想（2024年5月1日～2025年4月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,720	9.7	520	16.2	535	12.9	324	51.4	19.73

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料10ページ「中間連結財務作成の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年4月期中間期	17,464,000株	2024年4月期	17,464,000株
② 期末自己株式数	2025年4月期中間期	1,323,546株	2024年4月期	1,007,657株
③ 期中平均株式数(中間期)	2025年4月期中間期	16,225,753株	2024年4月期中間期	16,509,964株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の数値は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績の前提となる条件及び業績予想の利用にあたっての注記事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	10

1. 経営成績等の概況

当社グループは、2024年4月期第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年中間連結会計期間との比較分析は行っていません。

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の回復を背景とした個人消費の改善や、旺盛なインバウンド需要、円安による輸出型企業の業績拡大などにより、緩やかに持ち直しております。一方で、ウクライナや中東での情勢不安や長引く物価高による消費マインドの停滞など、依然として先行きの見通しは不透明な状態が続いております。

このような環境の中、当社グループは、景気動向に左右されにくい葬祭市場に対し、遺影写真等画像映像のデジタル加工や通信出力サービスを主に提供するフューネラル事業、1冊から本格的写真集という新しい写真のアウトプット手法を提案するフォトブック事業、空中結像という今までにないユニークな技術で、新しい市場を創造し、夢の実現を目指す空中ディスプレイ事業、それぞれに位置づけや特色が異なる三つの事業を展開してまいりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。各セグメントの業績数値にはセグメント間の内部売上を含んでおります。

(フューネラル事業)

当事業におきましては、自社営業による新規顧客獲得を確実に推し進め、主力である画像処理収入は堅調に伸びました。また、遺影写真出力用システムやサイネージ機器などハードウェアの売上も好調に推移いたしました。展示会などを利用し、「ロングコラージュ」やASKA3Dプレートを活用した製品など新しい提案をしてまいりました。

葬儀市場にITテクノロジーを活用した「葬テック」としてリリースしております「tsunagoo」は新規契約獲得は想定より遅れておりますものの、契約先においては「tsunagoo」を利用して供物や弔電などの注文が進んでおり手応えを感じております。

利益面につきましては、クラウド利用料や各種ソフトウェアの利用料が増加するなか、商品売上の適正な粗利の確保や画像処理オペレーションの生産性向上に努めた結果、セグメント利益は想定を上回りました。

以上の結果、売上高は1,576,417千円、セグメント利益は304,893千円となりました。

(フォトブック事業)

当事業におきましては、プロフェッショナル写真家向け市場は「アスカブック」、一般消費者向け市場は「マイブック」ブランドで展開しております。また、スマートフォンで撮影された写真からフォトブックや写真プリントをOEM供給しております。

プロフェッショナル写真家向け市場では、主力であるウェディング向け写真集は、コロナ禍回復による挙式増からの反動減に加え、特に6月度の全般的な売上の伸び悩みにより、売上は想定を下回る結果となりました。取組みとしましては、データ納品システムの機能増強、リアルセミナーの開催などを進めてまいりました。AI画像処理レタッチソフトの取扱いは開始しましたが、多くの顧客の要望に応えるための機能改善を待ちつつ、潜在顧客の掘り起こしを進めているところです。

一般消費者向け市場についても、依然として厳しい環境が継続しており苦戦はしておりますが、一定の底打ち感は見られております。マイブックでは各種キャンペーンの実施に加え、年賀状、カレンダー、卒業アルバムなど季節商品の受注に向けた準備を進めてまいりました。バーチャルビジネス分野では、連結子会社である株式会社BETへのサポートを継続し、ファングッズ売上拡大などの成果をあげております。2024年8月には広島で「おりづるVTuberフェス」を開催し、また銀座の拠点xLab(クロスラボ)を活用した体験型ファンミーティングの開催など各種企画を実行してまいりました。

利益面につきましては、原材料価格高騰や人件費上昇の影響を受けるとともに、主にウェディング向け写真集の売上が想定を下回ったことによる稼働率の低下が大きく影響し、セグメント利益は苦戦いたしました。

以上の結果、売上高は1,739,324千円、セグメント利益は191,766千円となりました。

(空中ディスプレイ事業)

当事業におきましては、空中結像技術を用いた新しい画像・映像表現により市場を創造することを目指しており、独自技術により空中結像を可能にする「ASKA3Dプレート」について、ガラス製、樹脂製それぞれを開発、製造、販売しております。

営業面につきましては、国内は自社営業を主として、海外は代理店を主として販売を推進しております。国内におきましては、第1四半期に出展した展示会のフォローに努めました。また、東京のデパートにおいて迫力ある5連空中壁面サイネージを設置いただきました。営業体制の強化も奏功し国内向け売上は一定の成果を上げました。一方、海外におきましては、代理店網の再編、拡充を進めており、シンガポール、韓国、タイにおいて代理店を設置いたしました。自社営業と海外代理店の協力によるアジア向けの大型プレートの売上が寄与いたしましたが、全般的に海外代理店経由の案件獲得が遅れており、売上は想定を下回るものとなりました。

製造・開発面につきましては、環境性能に優れた素材での製造開発を進めており、また自社技術開発センターでは中型サイズの品質向上、製造安定化を進め、一定の成果を得ました。また、量産案件を前提とした品質管理体制の強化に継続的に取り組んでまいりました。

損益面につきましては、海外代理店拡充や品質管理体制強化のための専門人員の人件費が増加したものの、案件ごとの粗利率の向上に努め、広告宣伝費や研究開発費を適切にコントロールしてまいりました。

以上の結果、売上高は89,183千円、セグメント損失は151,865千円となりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は3,402,169千円となり、利益面につきましては、フォトブック事業のセグメント利益が厳しかったことや、全社的にクラウドサービスやソフトウェアの利用料が増加したことなどにより、経常利益は19,291千円、親会社株主に帰属する中間純利益は2,249千円となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当中間連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末に比べ394,338千円減少し、6,696,105千円となりました。これは主に、自己株式の取得等により現金及び預金が277,506千円減少したことによるものであります。

(負債)

当中間連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ92,975千円減少し、840,653千円となりました。これは主に、未払金が54,263千円、未払法人税等が55,028千円それぞれ減少したことによるものであります。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ301,363千円減少し、5,855,451千円となりました。これは主に、自己株式の増加185,809千円及び配当金の支払い115,198千円によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ277,506千円減少し、1,382,508千円となりました。なお、当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況と要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において営業活動の結果獲得した資金は、240,881千円となりました。これは主に、減価償却費180,627千円、棚卸資産の減少34,398千円、売上債権の減少32,113千円を計上したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において投資活動の結果使用した資金は、201,918千円となりました。これは主に、生産設備購入など有形固定資産の取得による支出124,283千円、無形固定資産の取得による支出60,521千円を計上したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

中間連結会計期間において財務活動の結果使用した資金は、316,469千円となりました。これは主に、配当金の支払額114,893千円、自己株式の取得による支出200,857千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年6月10日に発表いたしました2025年4月期の連結業績予想につきましては、現時点において変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2024年4月30日)	当中間連結会計期間 (2024年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,665,015	1,387,508
受取手形及び売掛金	902,010	869,896
商品及び製品	648,580	608,747
仕掛品	68,847	77,207
原材料及び貯蔵品	102,728	99,801
その他	80,576	63,452
貸倒引当金	△9,851	△10,919
流動資産合計	3,457,907	3,095,696
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	831,048	804,051
機械装置及び運搬具(純額)	493,357	443,483
土地	844,060	844,060
その他(純額)	177,497	218,362
有形固定資産合計	2,345,964	2,309,959
無形固定資産		
のれん	298,891	279,608
その他	204,950	211,767
無形固定資産合計	503,842	491,376
投資その他の資産		
投資有価証券	571,582	570,497
その他	211,147	228,576
投資その他の資産合計	782,730	799,073
固定資産合計	3,632,536	3,600,409
資産合計	7,090,444	6,696,105

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2024年4月30日)	当中間連結会計期間 (2024年10月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	175,134	158,098
未払金	257,203	202,939
未払法人税等	85,473	30,444
賞与引当金	184,950	187,570
その他	223,527	255,341
流動負債合計	926,289	834,394
固定負債		
退職給付に係る負債	4,704	4,343
その他	2,635	1,916
固定負債合計	7,340	6,259
負債合計	933,629	840,653
純資産の部		
株主資本		
資本金	490,300	490,300
資本剰余金	626,380	624,759
利益剰余金	5,626,124	5,513,174
自己株式	△627,799	△813,608
株主資本合計	6,115,005	5,814,625
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	41,808	40,825
その他の包括利益累計額合計	41,808	40,825
純資産合計	6,156,814	5,855,451
負債純資産合計	7,090,444	6,696,105

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位:千円)

	当中間連結会計期間 (自 2024年5月1日 至 2024年10月31日)
売上高	3,402,169
売上原価	1,958,453
売上総利益	1,443,715
販売費及び一般管理費	1,427,837
営業利益	15,877
営業外収益	
受取利息	1,511
受取配当金	950
為替差益	436
その他	1,319
営業外収益合計	4,217
営業外費用	
自己株式取得費用	540
投資事業組合運用損	249
その他	13
営業外費用合計	803
経常利益	19,291
特別損失	
固定資産除却損	4
特別損失合計	4
税金等調整前中間純利益	19,286
法人税、住民税及び事業税	17,037
法人税等合計	17,037
中間純利益	2,249
親会社株主に帰属する中間純利益	2,249

中間連結包括利益計算書

(単位:千円)

	当中間連結会計期間 (自 2024年5月1日 至 2024年10月31日)
中間純利益	2,249
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	△983
その他の包括利益合計	△983
中間包括利益	1,266
(内訳)	
親会社株主に係る中間包括利益	1,266

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	当中間連結会計期間 (自 2024年5月1日 至 2024年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前中間純利益	19,286
減価償却費	180,627
のれん償却額	19,283
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1,066
賞与引当金の増減額(△は減少)	2,620
受取利息及び受取配当金	△2,461
投資事業組合運用損益(△は益)	249
固定資産除却損	4
売上債権の増減額(△は増加)	32,113
棚卸資産の増減額(△は増加)	34,398
仕入債務の増減額(△は減少)	△17,035
未払金の増減額(△は減少)	△21,188
未払消費税等の増減額(△は減少)	△2,655
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△361
その他	63,130
小計	309,079
利息及び配当金の受取額	1,472
法人税等の支払額	△69,670
営業活動によるキャッシュ・フロー	240,881
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△124,283
無形固定資産の取得による支出	△60,521
貸付金の回収による収入	106
定期預金の預入による支出	△5,000
定期預金の払戻による収入	5,000
その他	△17,219
投資活動によるキャッシュ・フロー	△201,918
財務活動によるキャッシュ・フロー	
自己株式の取得による支出	△200,857
配当金の支払額	△114,893
その他	△718
財務活動によるキャッシュ・フロー	△316,469
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△277,506
現金及び現金同等物の期首残高	1,660,015
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,382,508

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当中間連結会計期間(自 2024年5月1日 至 2024年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	フューネラル 事業	フォトブック 事業	空中ディス プレイ事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,576,417	1,736,568	89,183	3,402,169	—	3,402,169
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	2,755	—	2,755	△2,755	—
計	1,576,417	1,739,324	89,183	3,404,925	△2,755	3,402,169
セグメント利益 又は損失(△)	304,893	191,766	△151,865	344,793	△328,915	15,877

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△328,915千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。